

まえがき

本書は、アジア経済研究所の ASEAN 等現地研究シリーズ「経済開発政策共同研究プロジェクト」の 28 番目の成果である。マレーシアについては、本書は同シリーズの 5 冊目にあたる。また当調整役兼編者にとっては、2 冊目であり同時に最後のものともなる。

昨年 5 名のマレーシアの研究者、すなわち梁文勇博士 (Dr. Stephen Leong. スティーヴン・リョン)、マンソール・モハメド・イサ博士 (Dr. Mansor Md. Isa)、彭徳維博士 (Dr. Pang Teck Wai. パン・テクワイ)、アブドゥル・アジズ博士 (Dr. Abdul Aziz)、およびアイリーン・シア女史 (Mrs. Irene Sia) が本プロジェクトに参加し、その成果は『マレーシアにおける企業グループの形成と再編』(上記シリーズ No. 23) (“Formation and Restructuring of Business Groups in Malaysia”) の書名で日英両語で出版された。この 5 名の研究者のうち、残念ながら S・リョン博士は激務のため今年は参加できなかったが、代わって 2 名の研究者が本年度のプロジェクトに参加して下さったので、編者は安堵の胸をなでおろした。2 名とは、ソシオ・エコノミック・リサーチ・システム・アンド・コンサルタンツ社 (Socio-Economic Research & Systems Consultants Sdn. Bhd.) の杜乾煥博士 (Dr. Toh Kin Woon. トウ・キンウーン) と、マラヤ大学経済行政学部 (Faculty of Economics and Administration (FEA), University of Malaysia (UM)) のルガヤ・モハメド博士 (Dr. Hajah Rugayah Mohamed) である。本年度プロジェクトの初期の段階では、もう 1 名、FEA

の M・ファジラ・アブドゥル・サマド博士 (Dr. M・Fadzilah Abdul Samad) も参加して下さったが、研究のため海外に出られることになり、編者はやむなく同博士の“辞任”をのんだしだいである。

本年度事業に参加して下さった 6 名は皆、他にいっそう重要な仕事を抱えておられたにもかかわらず、多大の犠牲を払って事業を遂行し、論文を完成して下さった。6 名の方々の協力、献身に心からお礼申し上げたい。

S・リョン博士は、本年度はプロジェクトには関与されなかったけれども、引き続きさまざまな援助を与えて下さった。ここに感謝の意を表したい。

FEA とそのスタッフ全員に、特に御礼申し上げたい。とりわけ学部長のモハメド・アリフ教授 (Dean Professor, Mohamed Ariff), 李宝平教授 (Prof. Lee Poh Ping. リー・ポウピン), ジョモ・K・スングラム教授 (Prof. Jomo K. Sundaram), ワン・ザワウィ博士 (Dr. Wan Zawawi), 謝美齡教授 (Prof. Sieh Mei Ling. シエ・メイリン), 楊国強氏 (Mr. Yeoh Kok Kheng. ヨウ・コクケン), 李鴻錦氏 (Mr. Cassey Lee Hong Kim. ケイシー・リー), およびノーマ・マンソール博士 (Dr. Norma Mansor) は、さまざまな機会に私の研究を援助して下さい。

この研究にあたっては、FEA のスタッフの他に、次のような研究者、エコノミストにも大変なお世話になった。すなわち、マラヤ大学文学・社会科学部 (Faculty of Arts and Social Sciences) の陳志明博士 (Dr. Tan Chee Beng. タン・チーベン), 李鑑興教授 (Prof. Lee Kam Hing. リー・カムヒン), 謝愛萍博士 (Dr. Chia Oai Peng. チア・アイベン), シャハリル・タリブ教授 (Prof. Shaharil Talib), マレーシア国民大学 (Universiti Kebangsaan Malaysia) のラジャ・ラシア博士 (Dr. Rajah Rasiah), マレーシア工業開発庁 (Malaysian Industrial Development Authority) の陳志才氏 (Mr. Tan Chee Chai), マレーシア中華工商連合会 (Associated Chinese Chambers of Commerce and Industry of Malaysia) の黄錦生氏 (Mr. Ong Kim Seng. オン・キムセン) および、在マレーシア台北経済文化弁事所 (Taipei Economic and Cultural Office in Malaysia) の王朝和氏 (Mr. Wang Chao-Ho. ワン・ツァオホー) である。

マレーシア会社登記所(ROC)の利用にあたっては、同所の職員の皆さんのほか、私の若い同僚、鳥居高氏に大変お世話になった。

マレーシア・中国両国経済協力に対する中国側の見方を知るため、編者は1993年の夏中国を訪れた。汕頭大学港澳台東南亜研究中心(Center for the Southeast Asian Studies of Shantou University)、汕頭市投資委員会(Shantou Investment Committee)、慕倫糖菓食品廠有限公司(Modern Confectionery and Food Manufacturer Co. Ltd.)、暨南大学(Jinan University)の東南アジア研究所(Institute of Southeast Asian Studies)および華僑研究所(Institute of Overseas Chinese Studies)、広東対外経済貿易発展研究所(Guangdong Research Institute of Foreign Economic and Trade Relations)、広東国際投資顧問有限公司(Guangdong International Investment Consultation Co. Ltd.)、海南大学文学院(College of Liberal Arts, Hainan University)などの諸機関において、中国側研究者からいろいろなことを教えて戴いた。

中国・マレーシア合弁企業にはすべて質問用紙をお送りし、そのうちほぼ半分の企業には直接出向いてお話を伺った。訪問した際は、マレーシア人、中国人職員双方から、御多忙中にもかかわらず懇切丁寧な説明を賜り、必要な資料を可能な限り提供して戴いた。また、訪問できなかった企業のなかには、質問表を埋めて返送して下さったところもわずかながらあった。こうした方々の協力なくしては私の研究は成り立たなかった。回答に快く応じて下さった方々に厚く御礼申し上げたい。

私はまた、マラヤ大学文学・社会科学部最終学年に在学中の聡明で献身的な助手、洪玉玲嬢(Miss Ang Gaik Ling. アン・ギョクリン)にも大いに助けられた。彼女は私の普段の仕事を手助けしてくれただけでなく、時には企業訪問などの実地調査も分担してくれた。彼女に深く感謝するしだいである。

多忙にもかかわらず、すべてのページに素早く目を通し英語を訂正して下さったパトリシア・ソールビィ女史(Mrs. Patricia Thorby)にも感謝したい。

最後に、東京において事務の大半を引き受け、締め切り前に本プロジェクトを完成するよう絶えず注意を喚起して下さったアジア経済研究所の調査企

画室と国際交流室の職員，とりわけ加藤孝之氏に感謝する。

1994年2月 クアラルンプールにて

原 不二夫

〔追記〕

本書は，1994年3月にアジア経済研究所から刊行された，“The Development of Bumiputera Enterprises and Sino-Malay Economic Cooperation in Malaysia”の日本語版である。